MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network

Miyagi Environmental Life Out-reach Network MELON

2021年10月★第139号

SDGs教育プロジェクト～防災・気候変動環境学習の創造と実践①

SDGs教育プロジェクトで取り上げるテーマは、「防災」と「気候変動」です。この二つのカリキュラムとプログラムを作成して、小学校での実践を支援していくことが本プロジェクトの目的です。

カリキュラムって何?

それでは、そもそもカリキュラムとは何か？すべての教科においてそれぞれ学習指導要領というものが存在します。そこには、教科及び各学年の目標と内容、取り扱いの留意点などが示されています。つまり、学習指導要領が日本としてのナショナル・カリキュラムです。それを基に各学校では年間指導計画を立てます。つまり、カリキュラムとは、それぞれの教科を計画的に教え、体系的に学ぶために必要不可欠なものなのです。

では、「防災」や「気候変動」はどうでしょうか。教科でないために国としてのカリキュラムは存在しません。「防災」や「気候変動」を学習する上での目標は何か、どんな資質・能力を育てるのか、そのために何をどのように学んでいけばよいのかなどを明確にしていくことが肝要です。本プロジェクトは、「防災」と「気候変動」のカリキュラムを編成して学びを体系化し、それを基に学習プログラムを作成していくという初の試みです。

中野栄小・グリーンカーテン（8月29日）

（2ページ目に続く）

MELONとは 公益財団法人 みやぎ･環境とくらし･ネットワーク―通称『MELON』。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため１人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
- ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
- ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが１個もらえ、５個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
- MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
- メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。

～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

P1 SDGs教育プロジェクト～防災・気候変動環境学習の創造と実践①
P2 SDGs教育プロジェクト～防災・気候変動環境学習の創造と実践②
P3 部会だより～『水部会』
P4 「福島第一原発・汚染処理水の海洋放出に関わる声明」／かんきょう見聞記
P5 協同組合からのお知らせ／目指せ100人！環境リレートーク　樋口明日香さん
P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信Vol.92
P7 CSOラーニング制度の紹介
P8 会員ひとこと～ク／今月の1枚／イベント一覧／COOL CHOICE／事務局長交代のお知らせ／編集後記

SDGs教育プロジェクト～防災・気候変動環境学習の創造と実践②

教科横断的な学習プログラムって何?

「防災」や「気候変動」を取り上げた出前授業は、今までもさまざまな団体や個人が実施してきましたが、どうしても単発に終わりがちでした。そのため出前授業が何年生のどの教科に位置付けられるか、さらに、その前後にどんな学習を行うとよいかを検討して、学習プログラムとしてアップデートしていきます。

また、「防災」や「気候変動」の内容は、一つの教科に限りません。「防災」でしたら、社会、理科、体育(保健)、特別活動などに見られます。よって、複数の教科をつなげて教科横断的な学習プログラムとして作成することを試みます。新しい学習指導要領でもそれを推奨しています。

中野栄小学校４年・グリーンカーテンの学習計画例

授業時間	科　目	活動名	主な学習内容
1 時間目	理　科	「計画を立てよう」(春)	1 年間の観察の計画
2～13 時間目	総合的な学習の時間	「オリエンテーション」 「育て方を調べよう」 「種をまこう」 「苗を植えよう」 「お世話を続けよう」 「気候変動を調べよう	SDGs、気候変動、具体的な対策 つる性植物の特徴、育て方、土 ゴーヤとアサガオの種まき ヘチマ博士の話、苗の移植 水やり、誘因、摘芯、花摘み 気候変動、原因、現状と未来
14 時間目	理　科	「植物を観察しよう」(夏)	夏の成長の様子の観察
15～19 時間目	総合的な学習の時間	「効果を調べよう」 「実を収穫しよう」 「ヘチマを商品化しよう」	気温、CO_2 吸収量、涼しさの体感 ヘチマの実の収穫 ヘチマたわしの制作
20 時間目	理　科	「植物を観察しよう」(秋)	秋の様子の観察
21 時間目	総合的な学習の時間	「種とりをしよう」	ゴーヤとアサガオ、ヘチマの種
22 時間目	理　科	「植物を観察しよう」(冬)	冬の様子の観察
23～25 時間目	総合的な学習の時間	「きれいにしよう」	グリーンカーテンの片付け

支援のあり方の模索

NPO・シンプル＆スローライフの会が行ってきたグリーンカーテンの出前授業を核とした学習プログラムを作成して、さっそく小学校を支援する活動を始めました。

●仙台市立中野栄小学校４年生のグリーンカーテン

昨年度、キリバスSDGs学習プログラムを実施した中野栄小学校において、今年度は、4年生でグリーンカーテンに取り組むことになりました。理科は学校のみで行い、総合の学習を支援しています。オリエンテーションから始まり、8月現在は水やりや効果測定の手伝いをしています。

●仙台市立南小泉小学校５年生のグリーンカーテン

学校の方からグリーンカーテンに取り組みたいと要請がありました。6年家庭科の単元「涼しく快適に過ごす住まい方」を前倒しして5年生で学習し、住まい方の一つとしてグリーンカーテンを位置付けるという内容です。学校側の学習プログラムがあるので、それに沿って支援することにしました。

このように、学習プログラムが学校によって変わってくるので、支援のあり方も模索しているところです。SDGs環境出前講話の申込みがあっという間に定数に達するなど、学校現場での関心の高さが伺えます。他の学校からも支援の要請が来ています。次回は、その状況報告をいたします。

ヘチマの実

部会だより～『水部会』

水部会では、命の源となる水を保全するために、河川の水質調査、水と暮らしの歴史調査、水に関心を持ち親しむ講座の開催など、水に関して多様な視点から活動を行なっています。

「水の神さまを探せ」プロジェクト

飲み水、生活用水、田んぼの用水、また水辺のせせらぎは心の癒しとして「水」は私たちの暮らしに欠かせないものです。余りにもありふれているので普段は意識していませんが、長雨や台風の時や水道の断水の時などにその大切さに気付かされます。

安全で豊かな水に恵まれますようにとの地域の願いが込められ、川の源流部や井戸・堰・堤などに祀ったものが「水の神さま」です。これらの「水の神さま」には地域の水文化が刻まれています。

水部会では2008年より「水の神さまを探せプロジェクト」の活動を進め、堰や水の神さま、伝承などを探しては地域調査を進め、WEB掲載をして発信しています。

昨年秋には色麻町一の関地区にある河童川とそのほとりの民家の敷地に建つ「水神碑」、カッパ神社の別名をもつ「磯良(いそら)神社」を訪問し、地元に伝わる伝承とその背景などについてお話を聞きました。

（MELON水部会　篠原富雄さん）

カッパ伝説のある磯良神社（色麻町）

水部会活動の紹介

水部会はMELON設立当初から活動している部会です。

25年も過ぎましたが、大量消費のツケが地方にもたらされそうだった「河川上流域の産業廃棄物建設問題（白石市）」、震災時の水資源の多様化について考える「阪神大震災後に見直した仙台市内での井戸水利用のあり方」、河川法改正を契機とした「環境保全・河川利用」の視点に立った「県内主要河川の水環境評価と学習の手引き（リーフレット）作成」、生物多様性保全の流れにそう県内屈指の学習拠点である「伊豆沼・蕪栗沼・化女沼での渡り鳥観察と保護活動学習」などについて活動してきました。

さらに、15年以上も続く「広瀬川の上下流水質調査・水辺観察活動」では、広瀬川の上下流5地点を半日でまわり、化学試薬による水質測定や周辺環境の観察を続け、広瀬川流域の環境変化を評価しています。河川整備が進められていますが、水質は概ね良好に推移しています。

また10年以上も続く「水の神さまを探せプロジェクト」では40ヶ所以上を巡ってきて、地域の拠り所となる「水の神さま」の維持や再生、地域行事のあり方と人々のつながり、水を利用する地域の生業（酒蔵など）について考えてきました。東日本大震災後にはこの取組は各方面から高く評価されました。

現在、日常的に活動しているのは5人前後ですので、水環境問題や水文化にご関心のある方はぜひご参加ください。

（部会長　山田一裕さん）

写真　広瀬川・牛越橋上流地点での観察

「福島第一原発・汚染処理水の海洋放出に関わる声明」を宮城県知事あてに提出しました!

東京電力福島第一原子力発電所で生じている放射能汚染処理水について、菅内閣は海洋放出を閣議決定しました。この決定に際しては、多くの市民・団体から抗議や懸念が表明されていますが、MELONでも理事会等で議論し、宮城県知事あてに声明文を提出しました。

汚染処理水の海洋放出は環境や人体への影響が強く懸念されることから、以下４点を宮城県知事から関係機関に求めることを要請するものです。

1）処理水の放流を回避できる方法について、東京電力ほか関係機関が検討し尽くしたのかどうか、の確認と、その検討の過程がわかる資料の公開を求めます。
2）処理水の取扱いに関する国・地方自治体・東京電力などが関わる会議の全てを動画記録し、公開することを求めます。
3）処理水の取り扱いに関する意思決定に対する責任の所在を明らかにして、将来世代に負担を課さない体制を整えることを求めます。
4）仮に計画通りに処理水が放出されるにしても、処理水の取り扱いに関する東京電力の行動とその結果としての環境変化を第三者的に監視する体制を整えることを求めます。

※声明全文については、以下URLをご参照ください。

- https://www.melon.or.jp/wp/2021/09/01/seimeibunn/

「納豆が教えてくれる」

落語篇㉑
立川談笑「猿のゆめ」
石垣政裕（MELON理事）

昔、高校の生物の授業で紹介された「遺伝子」や「DNA」、「RNA」などという単語も、いま私たちは、新型コロナワクチンの話題としてお茶飲み話に聞くようになりました。ついこの間、贔屓にしている大粒納豆を手にし、「今日は大いに食べるぞ」とパックを裏返すと「この納豆は遺伝子組み換え大豆を使用していません。」とちゃんと印刷してあります。「使用していません。」と書いてありますから、使用していて流通している食品もあるわけです。もちろん、生物多様性に与える影響や、食料や家畜の飼料として人間の健康に与える影響がないようにしなければいけないわけですが、私たちはどんな遺伝子組み換え作物が原材料に使われているか、充分注意を払う必要があります。

今回は、立川談笑の創作「猿のゆめ」（立川談笑「薄型テレビ70% off」，夢空間，2008年）を聞いてみましょう。

ある日、主人公は、遺伝子検査をした医師から「あなたは、生物学的には、人間ではなく猿です」と断定されてしまう。いくら否定しても「『遺伝子』からは猿です」といわれる。家に帰るともう、そのことが噂として流れている。会社に行けば、会社としても猿との契約は成り立たないといわれてしまう・・・。

遺伝子の配列の分析が進み、その配列を切る『ハサミ』が発見され、今では、別の遺伝子を組み込むだけでなく、配列を編集できるまでになっているのだそうです。食料危機を回避できると遺伝子組み換え作物がつくられ、豊かな食生活が守られている？一方では大量の食品が捨てられている現実もあります。

この落語を聞いているととても気になることもあります。遺伝子の構造がその物の性質を決めているとすれば、その情報を誰が持ち、誰がみることができ、誰が使っていいのでしょうかと。私たちは、そんな議論の外にポツンと置かれてしまっているのでしょうか。

大粒の納豆を食べながらこの落語を聞くと、この問題が私たち人間の大事な部分にまで「糸をひいている」ことがわかります。

各協同組合からのお知らせ

MELONの協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

＃みんなの思いが 海を守るでつながろう
『アルプス（ALPS）処理水海洋放出に反対する署名』
に賛同をお願いします

海の復興は今が正念場です。海の豊かさを次の世代に引き継ぐために、一人ひとりが考え行動することが未来につながっていきます。海洋の環境対策や安全性についての説明、風評対策が不十分で、地域経済への重大な影響も懸念されているのがこの問題です。

みやぎ生協では、「東京電力福島第一原子力発電所のアルプス（ALPS）処理水は、海洋放出を行なわず、別の方法で処理すること」を求め、署名への賛同を呼びかけています。

詳しくは、みやぎ生協のHPをご覧ください。

アルプス処理水海洋放出に反対　検　索

▶お問い合わせ先◀みやぎ生協生活文化部くらしの活動推進課
電話：022-347-3826（平日9：30～18：00）

目指せ100人！
環境リレートーク

第82人目の執筆者
樋口 明日香さん
（株式会社フードハブ・
プロジェクト 食育係）

はじめまして。フードハブ・プロジェクト（徳島県神山町）食育担当の樋口です。弊社は農業者の育成を柱に、食堂、パンと食品店、加工品の製造、食育の５部門を運営しています。

食育部門では「育てる、つくる、食べる、つなぐ」を合言葉に、地域の学校と連携した体験プログラムを実施してきました。その中から、食堂と連携した１年生の「農家さんになる」体験プログラム（小学校１年生）を紹介します。

子どもたちは、学校前の畑で10数品目の野菜の種をまき、育て、収穫・納品します。料理人は野菜の様子を見ながら献立を考え、素材を生かした調理法でシンプルに味付け。翌日、子どもたちはその料理を食べに来る、農と食にまつわるひとつづきの体験プログラムです。

次年度から〝すべての子どもに農体験を、を合言葉にNPOとして活動していきます！知る、考える、そして自分でやってみること。自分の持ち場でよりよい食環境をつくっていける人が育ってくることを願い、活動を進めていきます。

連絡先：higuchi@foodhub.co.jp

… 次号執筆者紹介 …
Xavier Colombet/ザビェ コロンベット さん
（アースバックハウスビルダー／
TsaTsa House ツァツァハウス）

ストップ温暖化センターみやぎ通信　Vol.92

せんだいE-Action エネルギー実験室が開催されました!

日　時：8月6日
場　所：たまきさんサロン
主　催：せんだいE-Action実行委員会
参加者：50名

環境省による地球温暖化対策計画（案）では2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指しCO_2排出量を家庭部門から66%削減する必要があると示されています。

今回開催されたイベントでは、体験を通して3E（省エネ、創エネ、畜エネ）についてみんなで考えます。ストップ温暖化センターみやぎでは「持てるかな？エネルギーのかばん」を出展しました。「エネルギーのかばん」はそれぞれ日本、中国、アメリカの一日における一人当たりのエネルギー使用量を石油の重さにした時の重さと同じになっていて、かばんを持ち、どの国のものかを当てます。大人でも重いものもあり、子どもから大人まで楽しんでいるようでした。難しかったのか全問正解した方はたったの3名でした。その後簡単な解説をし、最後は仙台の年平均気温の上昇を当てるクイズで終わりました。皆さんは体験を終え笑顔で帰っていきました。一人一人に新たな気付きがあったのかもしれません。この機会でそれぞれが現在、未来にとって優しい暮らしを心がけられたら良いですね。

まずは重さを体感！

重さの理由について考えてもらいました

（CSOラーニング生　天内）

推進員だより No.33

推進員グループ「コミュニケーターチーム」の活動について

コミュニケーターチームは、平成30年度地球温暖化防止活動推進員研修の折に結成、5期生～11期生の5名です。MELON会議室を活用し、定期的に打ち合わせをしています。この7月で25回目になりました。

当初は、「地球温暖化の気温上昇・原因・影響」について、JCCCAや地球温暖化防止コミュニケーター等が公開しているツールを使用し、パワーポイント資料をみんなで作り、発表していました。最近は、「食品ロスや地産地消」について、生活者の視点で、「SDGsゴール・ターゲットとの関連性、また、温暖化防止につながる行動等を伝えられたら」と考えています。

昨年度、高校生や団体向けに「温暖化と食品ロス～食べものが泣いている～」のパワーポイント資料を作り講師派遣を4回行いました。アンケートには「分かりやすく退屈しなかった」との感想が寄せられ、メンバーの励みになっています。

現在、「温暖化と水循環」のシナリオ作りに取り組んでいます。「水道水を節水し、生活排水も汚さない生活をやってみよう！」と感じて実践してもらえるような仕上りを目指しています。

打ち合わせの様子

学校への講師派遣

「飛び立て、未来の主役たち～CSOラーニング制度の紹介」

SOMPO環境財団が行うCSOラーニング制度は、大学生・大学院生の方に環境問題に取り組むCSO（市民社会組織、NPO・NGOを包含する概念）で8か月間のインターンシップを行う制度のことです。この制度はSOMPO環境財団の「木を植える人を育てたい」という想いから生まれました。参加する学生が環境問題や市民社会の在り方などについて考え、広い視野を持つ社会人になってもらうことを目指しています。

全国で4地区、約60名の学生が各々のCSO先でインターン活動を行い、月1回行われる定例会にて情報交換を行っています。また今年度ZOOMで行われる全国合宿では全ての地区の学生が一同に集まり、交流や情報交換を行います。参加する学生はインターン活動を通じて、意欲ある仲間に出会い、社会経験や学びを得ることで成長していきます。

2000年から開始したこの制度は1000名を超えるOB・OGが年次を超えてつながり、新しいネットワークを構築しています。CSOラーニング制度を経験した学生がそれぞれの課題に向き合い、「木を植える人」へと成長し、社会で活躍できる人材になることを目的としています。

（CSOラーニング生　原子大二朗）

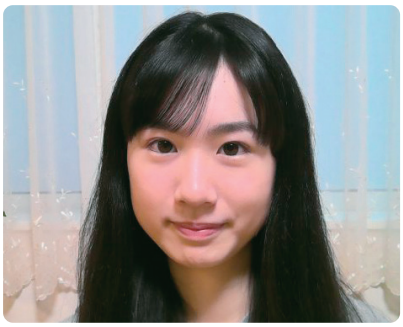
○ラーニング生のみなさん○

小野寺友芽（おのでらゆめ）

6月からラーニング生として、お世話になっている宮城教育大学3年の小野寺友芽です。大学では美術や音楽教育について学んでおり、サークルは交響楽団に在籍しています。環境への知識を身に付けるだけでなく、情報発信や企画構想などさまざまなことに挑戦していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

原子大二朗（はらこだいじろう）

CSOラーニング制度にてMELONでインターン活動を行っている、宮城大学3年原子大二朗と申します。大学ではまちづくりやマーケティングについて学んでいます。インターン活動を通じ、環境問題や社会問題について理解を深め、できることから実践すると同時に情報発信を行っていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



天内（あまない）ほのか

ラーニング生として活動させて頂くことになりました天内ほのかです。宮城大学で主に地域創生、デザインについて学んでおり、将来はWEBサイトやパンフレットで地域の魅力を発信することを考えています。ラーニング制度を通じて環境の面でも持続可能な地域にするために、広く情報を知ってもらうためには何が必要かを知りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

事務局長交代のお知らせ

これまで事務局長を務めていた高橋喜隆が、所属するみやぎ生活協同組合の退職に伴い9月20日をもってMELON事務局長を退任いたしました。これを機に事務局内の組織改編を行い、事務局全体をマネジメントする事務総長の職を新設するとともに、事務局長については対外的な役割を担うこととといたしました。新設となる事務総長には、宮城県生活協同組合連合会専務理事の野崎和夫が兼務で就任し、事務局長には現事務局統括の小林幸司が兼務することになりました。今後ともよろしくお願いします。

『今月の1枚』

荒浜海岸で海洋ごみの定点観測を定期的に行っています。今後も継続的に行い結果を報告いたします。

MELON
インスタグラムも
フォローよろしく
お願いします！

MELON_MIYAGI

編集後記

■ふと立ち寄った図書館で、私が好きな作者の本を読んでいる方がいてうれしい気持ちに。人とのつながりが希薄になりつつある今のご時世だからこそ、気づくことができたつながり。改めて、本の良さを実感することができました。（原子）

■混迷が深まる昨今、苦しい状況ですが、一度立ち止まり静かに物事を見直す良い機会かもしれません。静かに落ち着くことで解決することもありますね。（山形）

■コロナ禍でレジャーや外食などの我慢はある程度仕方ないと思います。でも、高齢の親族に会えないとか学校での活動ができないなど「今」しかない時間が奪われる人はつらいですよね。できる限りの対策をして1日も早く日常が戻ることを祈ります！（小林）

MELONイベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

イベント一覧（10月～1月まで）

10/24（日）	水の神さま調査（色麻町）
10/28（木）	GoTo脱炭素セミナー
11/6（土）	森林トークイベント

COOL CHOICE にご賛同をお願いいたします！ 地球温暖化対策のために、今できる「賢い選択」。

「COOL CHOICE」は、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え、サービスの利用、ライフスタイルの選択など、温暖化対策に資する、また快適な暮らしにもつながるあらゆる「賢い選択」をしていこうという取組です。

身近な生活のなかで、未来のために、今選択できるアクションを選ぶ。

あなたも、ぜひ「COOL CHOICE」にご参加ください！

賛同はこちらから

COOL CHOICE
賛同登録用
QR コード

会員ひとこと～く

会員の皆さんの環境への思いやイベントに参加しての感想を声にしていきます。

使い捨てプラ多いですね。最近マスクのポイ捨て目立ちます。生ごみはたい肥にしているが、家庭ごみ袋（10ℓ）、プラ袋（15ℓ）はそれぞれ2週に1袋。（一人暮らし）

〈会員状況〉

	492名
法人	55
任意団体	9
個人	428

2021年9月1日現在

ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELONボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元　公益財団法人　みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）Miyagi Environmental Life Out-reach Network
〒981-0933　仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F
★事務局　TEL 022-276-5118　FAX 022-219-5713
★情報センター　TEL 022-301-9146　FAX 022-219-5713
★ストップ温暖化センターみやぎ　TEL 022-301-9145　FAX 022-219-5710
E-mail melon@miyagi.jpn.org　URL https://melon.or.jp
落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。

RICE INK®
この印刷物は、輸送マイレージ低減による CO_2 削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。